我黨の展開せる日常闘爭、三黨合同は全民衆の支持する所となり社民、勞農黨の指導より離れて我黨に合流するもの多數ある。

川越支部、函館支部、山梨縣支部聯合會、東信支部は社民より分裂し來つたものであり、川越、函館の二支部は選擧にて獲得せるものである。

B、新聯合會結成

三重縣支部聯合會　九月一日
大分縣支部聯合會　九月廿四日
岐阜縣支部聯合會　十一月四日
山梨縣支部聯合會　十月廿日

斯くて支部聯合會等三十二を算し道三府四十三縣中支部を見ざるは沖縄、香川の二縣のみとなり無產政黨の中樞勢力を確立するに至つた。將に大衆の牽引力は我黨が第一である。之れ闘爭の結果である。

C、新支部準備會（現勢表參照）

四、他團體との共同戦線

一、新潟縣支部聯合會
無產黨合同促進同盟會の成立
都大衆、全農、勞農民衆の三黨

二、岡山縣支部聯合會
三黨合同促進協議會の成立（社民、大衆、勞農）

三、東京府支部聯合會
大島製鋼洋モスの爭議援護の爲に勞農黨と共同闘爭を展開

四、各支部に於てはその力、客觀的情勢を考慮しつゝ他の無產黨支部との間に共同闘爭委員會を持ちつゝある傾向にある。
（長野、京都、三重等々）

五、黨本部中央執行委員會（黨員反對、生活防衛、失業反對、淺口内閣打倒の共同闘爭を提唱す

六、各支持無產團體との間には常に共同闘爭を展開し組合に得たる大衆を常に獲得しつゝある。（例洋モス爭議勞働委員會の報告參照）
洋モスの爭議後、淺口内閣打倒を目標に東京市内外四十一ヶ所に演說會を組織す。（十一月八日）

五、組織部員

A、在京部員

部長　淺沼稻次郎　東京市深川區東大工町四八アパート十二號

主任部員　岩崎正三郎　府下渋谷町長丘三アパート十五

部員　長谷川貞三　府下三河島町町屋
高原淺一　下谷區南稻荷町九二
小松原光太郎　府下大島町七ノ二三二

小田島鐵郎　府下小梨川町
石橋鶴一　府下在原町戸籍七〇三
新井兵太郎　芝區新堀田町一九山崎今朝彌方
松本淳三　府下野方町下沼袋五七
田原春次　淺草區龜岡町三ノ八一
田中貞吉　麻布區新網町一ノ三七
渡邊惣藏　府下高田町上屋敷一二二七
笠井辰夫　小石川區大塚坂下町一九九
長谷泰助　府下高田町上屋敷三六三〇宮崎方
雛波虎一　深川區石島町二六二
高橋清人　下谷區入谷町二八一

B、地方部員

關根喜四郎、佐藤榮、山本新三郎（神奈川）、大木武雄（埼玉）、立見米吉（群馬）、黑澤幸一、（千葉）、千葉太郎（栃木）、地東作（茨城）、鈴木靜（千葉）、田中利時、入百枝正（福島）、日野吉雄（宮城）、橋田儀重（岩手）、林長三郎（青森）、大野宗一郎、田中建、鍵田益一（秋田）、小島孝吉（山形）、武内五郎（新潟）、西澤久雄（長野）、秋山要（山梨）、山本國一（岐阜、愛知）、幾山關三郎、神田兵三（京都）、永瀬憲次（三重）、米田留（奈良）、田村正成（和歌山）、鈴木悦次郎、木山直三、北田略三、足立金次（大阪）、代野逸次、永江一夫、水畑敏夫、佐野好夫（兵庫）、新田武人、村井一夫（廣島）、山崎駿定（島根）、前田利秋（鳥取）、稻葉金三郎（愛媛）、笠置直治（福岡）、森孝守（長崎）、田村定一（山口）

C、組織部員會議

第一回委員會

九月十八日　於黨本部
九月廿四日　於黨本部
出席者　在京部員

二回の會合を通じて組織部員の任務は本部と地方組織との連絡、一般オルガナイザーとしての黨務等に概括されるが次の如き一般を規定した

一、全國的大衆闘爭の組織化（組織の統一、連絡）
二、地方（支部、支部聯）組織闘爭に關する調査、監督
三、カンパニーア闘爭の指導監督
四、地方合同の促進日常闘爭を通じて主體完成への努力
五、オルガナイザーの訓練養成

此の決定に從つて地方部員に活動を促し連絡を緊密にして部員としての組織闘爭を展開す

六、指令、通達

1、支部聯、支部合同に關して　（七月六廿日）
2、支部聯支部聯合會調査に就て　（七月廿九日）
3、爭議應援演說會に就て　（八月二日）